

## 今日のみ言葉 271 「主はすぐ近くに」

2017. 8. 9

主はすぐ近くにおられる。

どんなことでも思い煩うのはやめなさい。

すべてのことにおいて、感謝をこめて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。（フィリピ書4の5～6より）

The Lord is near.

Do not be anxious about anything, in everything by prayer and supplication, with thanksgiving, let your requests be made known to God.

多くの人は、聖書に言われる愛と真実の神など、まったく信じられないという。いるにしても、そのような神は、自分とは無限に遠いところにいて何の関係もないのではないか—と持っているようである。

私自身もそのような状態であった。しかし、本当はこの聖句にあるように、すぐ近くにおられる。私たちの心の目がふさがれているゆえに、はてしなく遠くに、あるいは存在しないように感じるのである。

自分のさまざまの正しいあり方にとどまることができない心の状態（罪）を思うとき、それを赦して、心を軽くしてくださるという実感を与えられたとき、神は突然近くにおられるのを実感するようになった。それはいまから50年余り以前のことであったが、はっきりと思い出すことができる。

人間の愛でも、離れていても、思い出すだけで心がある種のあたたかいものを感じるということはあるだろう。それは相手の人の心を間近に感じるからである。

心の目に浮かぶ十字架の上から、キリストが、あなたの罪は赦されたのだ—という静かな語りかけを聞き取るとき、神は、そしてキリストはいかなる人間よりも近くにおられると実感できるようになる。

近くにいてくださるのを実感すればこそ、その神に自分のだれにも言えないような苦しみや悲しみをも打ち明けることができる。

そのような重い心や沈みがちな心のただなかで、感謝などできるだろうか—とだれしもが思う。そうした中でも、必ず神は愛と真実の神でしかも全能ゆえに私たちの願いを何らかのかたちで聞いてくださると信じることができるゆえに、感謝を込めて祈ることへと導かれる。また過去の数々の主による導きを思い起こすとき、現在与えられていないものでなく、与えられているものを思うときに、感謝はうまれてくる。

そうした感謝をもって、心の願いを神に打ち明ける—そのようにすることは、神がいかなる御方であるかを知り、過去、現在そして未来を見つめる心の姿勢があるほど、この聖書の言葉でいわれているような祈りへと導かれるのがわかる。

主は近い—この言葉は、また、主がふたたび来られて悪の力から最終的にこの世界を救いだされる時が近いということも含めて言われている。私たちは、いろいろな理由をつけて神など遠くにいる、いないのではないか—などと考えがちである。そのような私たちに向けて、常に主は近くにあって語りかけておられるのである。



チングルマとは、稚児車（チゴグルマ）から出た名前で、花が終わったあと、その実（花柱）が伸びて風車のように見えることからと言われています。これは高さ10cm前後、3cmほどの白い花で花びらは5枚。中部地方の高山から北海道、アリューシャン、カムチャッカなどに見られる花で、しばしば群落をつくります。

上の写真は、大雪山の数百メートルに及ぶと思われる広大な群落で、天然の雄大な花畑です。この花は、雪溪の周辺などでよく見られますが、この写真の地域は、冬には厚い雪で覆われ、その下で長い期間を眠り続けて、初夏になって雪解けが終わるころに成長して一斉に花を咲かせます。

このチングルマだけを、ここに特別に咲かせているかのような、そのような気持ちになるほどにこのあたり一面にこの花が広がっているので、神の見えざる御手によって手入れされた感がします。

北方の厳しい環境にて咲くこの花は、夏の数カ月花を咲かせて種をつくり拡散させて雪に埋もれていきます。神はどんな厳しい状況にあっても驚くべき清いもの美しいものを生み出すことができるのを実感させてくれます。

人しれず奥地の高山に咲く花々、神ははるかな古代から、このように清く、美しいものを世界に至るところに創造され、人間の心にもその一部を注いでこられたのを思います。

(文、写真ともT. YOSHIMURA)